

2020年度 賛同寺院向け調査報告書 (概要版)



2020.12.7

おてらおやつクラブに登録している賛同寺院の活動実態や、
おすそわけを送付する支援団体との関係性を把握する。



調査目的	おてらおやつクラブに登録している寺院を対象に、活動実態と、おてらおやつクラブ事務局やマッチング支援団体との関係性について把握し、今後の示唆とする。
調査手法	インターネット調査
調査対象	おてらおやつクラブに登録している賛同寺院のうち、メールアドレスを有する1,115寺院 * 複数寺院で合同で発送している場合は代表寺院が回答
調査時期	2020年10月2日（金）～10月25日（日）
回答者謝礼	Amazonギフト券500円分
回答数（回答率）	378サンプル（33.9%）

1

寺院からのおすそわけ頻度は「月に1回」が2割、「2～3ヶ月に1回」が4割を占め、今後の活動への継続意向は9割強にのぼる。

2

寺院と支援団体との関係性は、7割強が「良好」と回答。

3

おてらおやつクラブに関わることによって、子どもの貧困問題に目が向くようになった寺院は8割弱。また、「地域を見守る目として役割を果たしたい」想いをもつ寺院も8割にのぼる。

4

おてらおやつクラブへの参加を、知り合い寺院へすすめたいお寺は8割。

おてらおやつクラブの取り組みは、「施し」のパス回しですね。他者からのパスをキャッチして、次の他者へと心のこもったパスを出していく営みです。他者からパスされた恵みのことを、インドの仏教用語でクリタと言います。クリタは「恩」と訳されています。パスが自分のところへやってきた喜びは、人間の生きる力と直結していると思います。また、そのパスをきちんとキャッチすることを「知恩」(クリタジュニヤ)と言うんです。日本仏教に「知恩報徳」という用語がありますよね。報徳とは、パスを周囲へと回していく意です。喜びの順送りですね。ところで、私の知り合いに、「苦勞している人」を「ケアする人」を「ケアする集い」を運営している人がいます。こちらの方は、いわば苦勞のパス回しですね。そんなふうに、喜びも苦勞も順送りして、みんなでグルグル回す社会が望ましいと思うのです。おてらおやつクラブは、そんなあり方のモデルです。日本のお寺文化を基盤として、とても豊かなつながりを提示してくれています。応援しています。

釈徹宗様／浄土真宗本願寺派 如来寺住職、相愛大学副学長

認定NPO法人としての認定、おめでとうございます。高い公益性、公正性、および透明性、そして社会からの必要性、すなわち、これまでの実績が評価されてのこと。

そのことは今回の調査結果からもわかります。今後の活動への高い継続意向に加えて、寺院と支援団体との良好な関係性が明らかになりました。そして、おてらおやつクラブの活動に参画した寺院は、地域社会の課題に意識が広がっています。

地域社会は時代ごとに様々な連携をして、飢饉、疫病、災害などに対応してきました。そこには寺院の関わりがありました。信頼、規範、お互いさまといったつながり、昨今いわゆるソーシャル・キャピタル(社会関係資本)としての寺院です。寺院が、日ごろから地域の様々なアクターと連携し、多世代・多様性の地域コミュニティを再構築していく。

おてらおやつクラブは、その種まきも、そして果実も生み出しましょう。さらなる広がり期待しています。

稲場圭信様／大阪大学大学院教授（人間科学研究科・共生学）
・宗教社会学博士

「おすそわけがまだまだ足りません」。そんな支援団体さまの切実な声にどうすれば答えられるだろうか？全国のお寺さまの力を借りればなんとかなるかもしれない。「おてらおやつクラブ」の活動が始まったきっかけはそんな思いつきでした。

その一方で、お寺さまに無理なお願いをしていないだろうか。見えにくい貧困問題を理解してもらえるだろうか。活動を続けていく中で、いろいろな葛藤や不安があったのも正直なところだ。

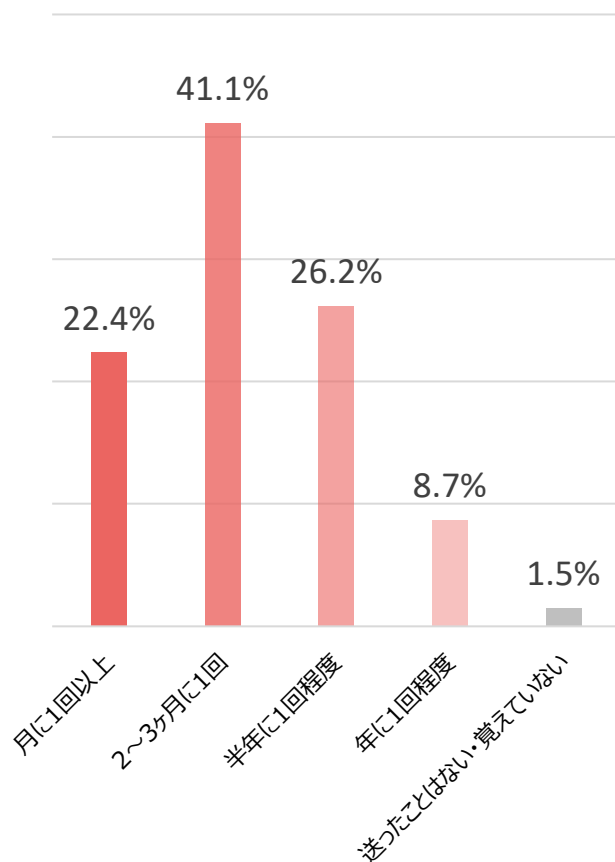
しかし今回、多くのお寺さまから「おてらおやつクラブ」への思いをうかがって、その不安は杞憂であったことを実感しました。「おすそわけ」だけでなく、自ら積極的に地域の声に耳を傾け、自分たちにできることを広げようとしてくださっていることにこちらが励まされています。

活動を初めて7年目を迎え、今年は認定NPO法人となりました。子どもの貧困問題の解決に向けて、全国のお寺さまとともに、より公益性の高い活動を進めてまいります。ぜひこれからの活動にご期待ください。

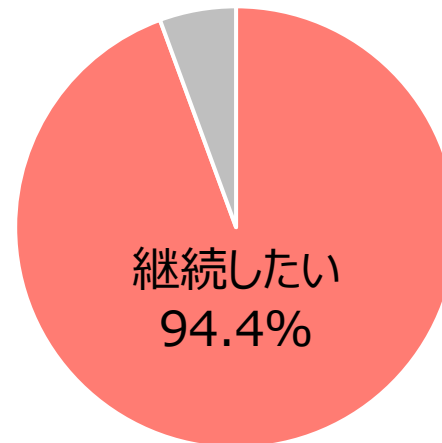
松島靖朗／認定NPO法人おてらおやつクラブ代表理事

寺院からのおすそわけ頻度は「月に1回」が2割、「2～3ヶ月に1回」が4割を占め、今後の活動への継続意向は9割強にのぼる。

Q. おすそわけの頻度



Q. おてらおやつクラブ継続意向

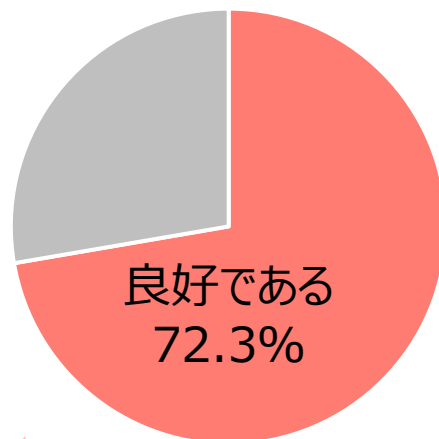


「お一人で始められた活動が、多くの方を巻き込んで大きなうねりとなっていく躍動感がすごい。」

「すみやかに支援先を紹介してくれたり、定期的にマガジンを送付していただいたり、広報活動もしっかりされていて安心できます。」

寺院と支援団体との関係性は、7割強が「良好」と回答。

Q. 支援団体との関係性



「施設の先生や子ども達が年に1回程度、バスや電車を乗り継いでお寺の行事に参加くださったり、また、お正月やクリスマス等には、お寺の皆さまへということで、手作りのプレゼントをいただいたり、互いにそれぞれの顔が見えるような関係を築かせていただきました。」

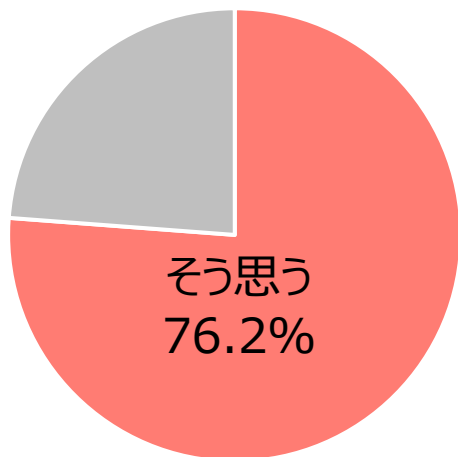
「昨年、支援先の活動状況やお礼状をいただき、お盆に納骨堂で掲示させて頂きました。こういう報告をする場があると檀家さんがそれを目にして支援を続けることの励みになり、その輪が広がります。」

「地域貢献をやっている気にはなれるので満足はできるが、支援団体への役に立っているのかどうかはわからない。」

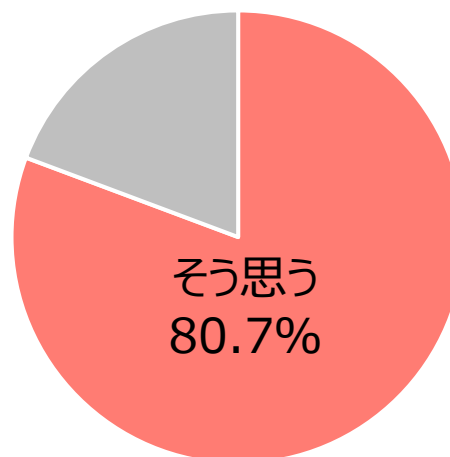
おてらおやつクラブに関わることで、子どもの貧困問題に目が向くようになった寺院は8割弱。

また、「地域を見守る目として役割を果たしたい」寺院も8割にのぼる。

Q. おてらおやつクラブに関わることで、
子どもの貧困問題に目が向くようになった



Q. 自分のお寺は、地域を見守る目として
役割を果たしたい

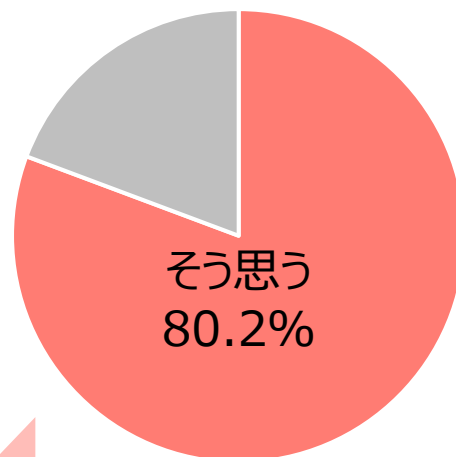


「“子供の貧困”という言葉に敏感になった。敏感になると、いかに多いかという事実が見えて来た。」

「寺を運営している中で、どうしても高齢者、高齢者を取り巻く課題に目が行きがち。支援先が児童館であったため、恥ずかしながら児童館がどのような活動をされているのかを初めて知った。今まで、塾に通えない子や放課後に居場所がない子について、遠いところの話という感覚だった。」

おてらおやつクラブへの参加を、知り合い寺院へすすめたいお寺は8割。

Q. おてらおやつクラブを知り合いの寺院
にすすめたい



「一人でも助かっている人がおられれば、活動は尊いものであると思います。」

「お寺やそこに関わる人たちが、無理をせず、出来ることを通じて社会支援を行ったり、関心を持つことが出来る素晴らしい取り組み・仕組みだと感じています。」

「コロナ禍の状況を踏まえた“今できる”活動を行っているから。」

「知らなかった問題を知る機会をもらえたし、この活動をしていることが昨年の災害時にものすごい助けとなりました。私はもちろん、被災者がどれほど救われたかわかりません。」

名称	認定NPO法人おてらおやつクラブ
所在地	〒636-0311 奈良県磯城郡田原本町八尾40 安養寺内
活動開始	2014年1月1日
認定NPO法人認証	2020年11月30日
Webサイト	https://otera-oyatsu.club
代表者	代表理事 松島靖朗
役員	副理事 高山信雄 副理事 渡邊元浄 理事 野田芳樹 理事 福井良應 監事 井出留美 監事 桂 浄薫
相談役	森本公穰